

# 倉 青 協 10 年

21 世紀に向かって

倉庫業青年経営者協議会

# 倉 青 協 10 年

21 世 紀 に 向 か っ て

倉庫業青年経営者協議会

目次

創立十周年を迎えて  
創立十周年を言祝ぐ

座談会 十周年を迎えるにあたって  
十年をおもう

十周年によせて

総会・全体会 記録  
倉庫業青年経営者協議会 会則

倉庫業青年経営者協議会	会長 安田 肇	1
運輸省 港湾局	倉庫課長 加藤 書久	5
(財)日本倉庫協会	会長 和田 稷太郎	8
乾 倉 庫 (株)	社長 乾 宏平	15
岡山土地倉庫(株)	社長 末長 範彦	16
(株)天満倉庫(株)下関天満倉庫	社長 小西池 庸吉	17
京 南 倉 庫 (株)	社長 上村 多恵子	18
日本埠頭倉庫(株)	社長 松木 俊武	19
日本倉庫経営者倶楽部	会長 白石 信喜	21
倉庫業青年経営者協議会	初代会長 鈴木 又右衛門	22
	二代会長 河野 鉄雄	24
	三代会長 古川 浩司	25
		27
		38



創立十周年を迎えて

倉庫業青年経営者協議会

会長 安 田 肇

倉庫業青年経営者協議会が発足し、早いもので、本年度で十周年を迎えることになりました。昭和四十八年五月、創立総会を開催して以来今日まで、年譜にも見られますように各種の活動を続けてまいりましたが、これもひとえに会員の皆様ひとりひとりの積極的な努力とご協力並びに、日本倉庫協会、運輸省倉庫課の方々の、暖いご支援によるものと、心から感謝申し上げます。

古来より「十年一昔」と、十年という時間を時代のエポックとする風習がありますが、今回十年史を発刊するに当りまして、紙面をかりてこれまでの十年を省み、またこれからの倉庫協会に対する希望や所信を述べさせていただきたいと思っております。

四十八年以降の十年は、同年初の第一次オイルショックを皮切りに、公害問題にみる企業の社会的責任の追求、第二次オイルショックによる経済の低成長化の定着、又地方の時代と言われる文化・経済の分散化、個人消費の多様化や、新産業革命と言われる重化学工業からの産業

構造の転換と価値の変化、そして経済の世界同時不況に今はまた逆オイルショックと、変化の多い激動の十年でした。

この意味で、倉青協は発足以来「十年一昔」どころか「二昔、三昔」の経験をしてきたように思えるのであります。

このような変化の時代を通して、倉青協は会員相互の研鑽と親睦、業界の社会的地位の向上、物流革新に対応し得る基盤の確立という、会の目的を一貫して求め続けてまいりました。

これらの活動や運営につきまして、反省や批判も多々ありますが、全体会でのタイムリーな講演や施設の見学、同志としての裸の意見交換、各種部会や委員会での、時代を先取りした活発な討論や行動、更にはこの組織を母体としての地域団結の動きまで展開されてくるなど、充実したものであり、活動の場も夫人同伴での海外研修や世界倉連への参加等国際的な広がりをみるに至っております。

一方、オーナー経営者としての悩みや苦しみを、親身になって話し合い、相談できる場として、企業規模や年令をこえて運営されてまいりましたことは、他の各種団体、組織には見られない貴重なものであります。

このことは、初代会長より歴代会長に引継がれてまいりました倉青協の「大いなる遺産」であり、今後も継承されるべきものでありましょう。

以上のようにこの十年を省み、その上で倉青協これからの十年を考えてみますと、大きな、きびしい問題が山積しております。

第一に、倉青協が十年という歴史を作りあげただけに、設立時の会員の多数が順次卒業期を迎えてきており、その後継会員の問題があげられます。現在会員は倉青協九十一名、経営者倶楽部二十四名、合計一一五名の構成ですが、この会員数を維持発展させるためには、会員の子息を含めた若手経営者を育成し、自らのための、自らの会としてより一層積極的、具体的な活動と研鑽によって、ユニークな発想を培う場とする必要があると考えます。

次に、軽薄短少の時代を迎えての物流業界の変化に対応すべく、消費者、顧客のニーズを適確に捉え、それを基本により良いサービスを開発する「新しい目」をもって、倉青協のあり方を見直すことであります。

そのためには、この十年で我々が経営者個人として学んだことをそれぞれの企業の組織風土の中に定着させ、組織の規範として活性化し、風土の改善に結びつけなければならないと思えます。これはオーナー経営者としての反省であり、今後の部会や委員会活動の方向を示唆するものであります。

第三は、産業構造の転換期にあって、物流業界を含めた産業界の動きが、分極化、分散化する傾向と、統合化に向う流れの中で、倉青協会員個々の企業や地域の特性をいかにシステム化していくかという事であり、顧客と消費者の間に立って、物流業界の要としてのシステム造りと、そのインターフェイスをどのように統合するか、大変重要な課題と考えます。

以上、思いつくまゝに述べてまいりましたが、倉青協が内外に対して積極的に発言し、行動する会であることは勿論のことですが、今後とも「楽しい会」であることも必要であり

ましょう。

こゝに、十周年という記念行事を開催する機会に恵まれましたことは、私にとり非常に幸いであると同時に、次代を担う優秀なリーダーへのバトンタッチを最大任務とし、当会の発展のために、残された任期もあとわずかとなりましたが、世界倉連東京大会も含め、一所懸命つとめるつもりでございます。

終りに当り、今後とも倉青協の二十年、三十年の発展のため、同じ理想と使命感をもつ会員皆様のご協力を切に希望して、会員各社の一層のご発展を祈りつつ、十周年記念の挨拶いたします。



## 倉青協に期待する

運輸省 港湾局

倉庫課長 加藤 書久

倉庫業青年経営者協議会が本年三月をもって創立十周年を迎えられるとのこと、まことにおめでたうございます。

この十年の間には、政治、経済、社会の各面で変動激しく、その中で、会員の皆様それぞれに事業の上で発展を遂げられるとともに、本会の充実、拡大を図って来られましたことは、真に容易ならぬことであつたと思います。

「細くとも永く続かねば繁盛でない」と聞いたことがあります。本会が長きにわたり発展を遂げてこられましたことは、まさに繁盛であり、会員の皆様、とりわけ、本会の運営に関係された各位のご労苦とご努力のたまものであると、深く敬意を表するものであります。

最近の世界経済は、世界同時不況といわれるように、経済成長の停滞、失業者の増加等の苦況にあり、日本経済も、内外の要因により、低成長が定着しつつあるかに見えます。特に、今後のわが国経済については、サービス経済化の進展（第二次産業の比率の低下と第三次産業の

比率の増大)、第二次産業における先導産業の変化(重化学工業から、マイクロ・エレクトロニクス、バイオテクノロジー、新素材等へ)が指摘されており、いわゆるトン産業からグラム産業へと産業構造が変化して行くと考えられています。

一方、荷主企業等における物流合理化の要請から在庫調整等も一層進捗し、前述の産業構造の変化に伴う物流量の減少と相まって、営業倉庫の経営環境は、ますます厳しいものとなることが予想されています。

これを要するに、営業倉庫は、これまでその保管、備蓄機能を中心に、物流活動の中核として、国民生活や産業活動の安定に必要な不可欠の役割を果たしてきましたが、今後は、将来における物流量の減少と、物流合理化の進展の中で、いかなる役割を果たし得るのか、また、そのためには、どのような運営をするべきなのか、今、真剣に問われている所があります。

このような倉庫業の転機にあたり、本協議会に期待する所、真に大きいものがあります。倉庫業の青年経営者の方々が、知恵を出し合って業界の進路を探り、力を合わせて、業界発展の牽引力になって頂きたいと思えます。私ども運輸省も、日本倉庫協会と協力して、現在、「国際化、情報化時代の営業倉庫の運営のあり方」ということで、調査、研究を実施する等、業界の将来のために微力を尽くさせて頂いておりますが、それはそれとして、本協議会にも、新時代の営業倉庫の進むべき道について、英知と創造力を発揮して頂くよう期待するものであります。

安岡正篤先生の言葉に「死中・活有り。苦中・楽有り。忙中・閑有り。壺中・天有り。意中人有り。腹中・書有り。」(六中観)というのがあります。また、「悪い事を言うて待つなよ、先

を樂しめ」という言葉もあります。

前途に予想される環境は極めて厳しいが、生きるべき道は必ず有るはずであります。繁栄への道を探り、そして、皆してそれに進むに当り、本協議会の若き力に大いに期待いたします。

創立十年というこの節目を境に、倉庫業青年経営者協議会とそのメンバーの皆様が、一層のご発展を遂げられ、さらに倉庫業界発展の原動力となって行かれるよう、心から祈るものであります。



## 倉青協創立十周年を記念して

（任）日本倉庫協会

会長 和田 穰太郎

倉庫業青年経営者協議会の創立十周年に当り、ひとことお祝詞を申し上げます。

貴協議会は、会員相互の親睦と協力により、倉庫業の発展と社会的地位の向上を図ることを目的として、第一次オイルショック直前の昭和四十八年五月に設立されました。その当時は、日本経済が高度成長期に終焉を近づけ、産業界にとっては新たな事業施策が一段と強く要請された時期であったと思います。そのような時代背景を考えますと、貴協議会の結成は、まことに時機を得たものでありました。

爾来、日本経済が中成長から二―三％台の低成長時代に移行する中で、鈴木初代会長から安田現会長に至る歴代会長が、それぞれ独自の方針を打ち出されて、物流革新に多面的に対処しながら、倉庫業の基盤確立のため切磋琢磨され、成果をあげてこられたことは、まことにご同慶にたえません。また、ひいては、陰に陽に日倉協活動に新しい息吹を吹き込んでこられたことに厚く謝意を表します。倉青協の皆さま方の活動を拝見して、とくに痛感しますことは、経営

の第一線にたちながら、寸暇をさいてエネルギーに会合と討論を重ね、また、識者を招いて研鑽に努め、よりの確で効率的な事業展開を追い求める積極的な経営姿勢に対してであります。

この十年間における活動の中で特筆される成果のいくつかをあげ、引き続き今後の発展を祈念する次第です。

その第一は、有志相語らった「日本縦貫倉庫グループ」の結成であります。倉庫業が地域性の強い業態であり、しかも他地域への進出には多くの問題があることを考えますと、このような協業体制の確立こそ各業者に全国的機能を可能にする最も現実的な方法であり、これを推進することにより、業界全体が地域性を脱皮してゆくことが期待されます。また、日本経済の国際化の進展とともに、物流業においても国際化が要請されていることを先取りして、昭和五十一年より海外研修に努めてこられたことです。日倉協が、国際倉連年次大会に参加するに際して、諸兄の視察団派遣とアプローチが一つの契機となった経緯もあり、この意味では、倉庫業関係者の視界を物流の国際化の流れに広げた意義はまことに大きいものがあります。奇しくも、本年五月、国際倉連東京大会を開催することとなっています。会員皆さまのご協力、ご支援を心からお願ひ申し上げます。

さらに、昨年、システム委員会を設置して、物流業の要としての倉庫業の発展を期して、ソフト面の研究、開発に本格的な取り組み体制を整えられたことは、日倉協のシステム委員会の活動と相俟って業界として大変心強い限りです。

倉青協創立十周年を迎えるに当って

出席者 (敬称略、着席順)									
鈴木	木又右衛門	太成倉庫	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
森本	石楨信	東陽倉庫	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
白河	野川鉄浩	湘南倉庫	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
古田	池田庸吉	芸黒式	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
安小	西池	大株	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
オブザーバー	井村多恵	鳥栖倉庫	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
笠上	萩司岡	京富	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式
司岡小		協和一	倉庫	株式	株式	株式	株式	株式	株式

このほか、人材開発の見地から講習会の開催、視察旅行あるいは相互派遣などの方法により社員研修に特に力を注いでこられたこと等、貴協議会は精力的に各種の活動を推進して、この難しい時期を乗り越えらるとともに、倉庫業界の発展に資してこられました。

これからの物流業界をとりまく環境は、より一層きびしくなると予測されています。それは、日本経済において第二次産業の比重の低下に加えて、個人消費の物離れ傾向が一段と強くなり、物流量の伸長を従来の延長線上に予測することが困難とされているからです。従って、倉庫事業者はこのような物流構造の変化を踏まえて、柔軟な発想による的確な施策を展開することが要請されていると考えます。

幸いにして、創設以来培ってこられた会員相互の強固な精神的連帯感と貴重な実績を礎として、この難局を切り拓き、貴協議会が一層の飛躍を遂げられることを期待いたします。同時に、日倉協各種会合においても、斬新な意見具申と積極的な活動をされますよう希望して止みません。

末筆となりましたが、倉青協OBで結成されている「日本倉庫経営者倶楽部」の皆さまにも心からお慶びを申し上げて、私のお祝詞といたします。

はじめに

司会 本日はご多忙のところ各地より遠路ご参集いただき有難うございました。早速倉青協創立十周年を迎えるに当り、先輩諸氏より設立の経緯や生みの苦しみ、また歴代会長の方針、事業内容、そして今後の倉青協のあり方等について、お話しをいただきたいと思っております。

設立の経緯

B氏 日倉協の評議委員会が昭和四十七年十月に洞爺湖で開催されたその折若いの二人いるとのことで、鈴木さん（太成倉庫）と知り合い、若い人の話し合いや発言の場が少なく感じしていたので、若い者の会をもちたいという話しをしたことからスタートし、多くの方々を知り合うようになり、若い人の会を作ろうという機運が高まった。そして、日倉協の八十島会長代行に相談をもちかけ、日倉協会員の中の若手経営者で組織しようということになり、全国に呼びかけ、昭和四十八年二月東京で設立準備委員会を開いた。そこでは会社の規模の大小とか年令を問わずお互いに親しく意見交換の出来る会にしようという趣旨で集った。

G氏 当時地区青年会議所の中でも、倉庫、運送関係の部会をつ



くろうという話しもありそのような機運は各地にあった。

**A氏** 倉庫業者はどうも挨拶が少なく、もつとフランクな話し合いの場をもちたい。そのためにはお互いの名前と顔を知ることからはじめることが必要となり名古屋以西を森本さんに、東は故浜口さん等にお願ひし、また日倉協の協力を得ながら、北海道から沖縄まで約百社の方々の賛同を得、設立準備会を開くまでに行った。

**B氏** 当時日倉協に料率実施委員会ができ、地方の会社も結束を計る必要もあり、また勉強もしなければという気持ち、日倉協のあり方に対し、オーナー経営者としての悩みを打開ける場がほしいという気運も強く、この会が出来ることを期待していた向きもあった。

**A氏** 倉青協創立の柱は葵倉庫の浜口さんにあると思う。大変実務肌の方で、真面目で、日本の東の部分については自からも足を運び、倉青協設立に努力され、親睦よりもまず勉強であると勉強を第一に会の結束を計られた方で、おしい方を失ったが、倉青協の本当の功業者であると銘記しておくことが大切であると思います。

**C氏** 私は当時海の関係におり創立総会は知らなかったが、誘われて第一回全体会より参加させていただいており、大変真面目な良い会であると感じている。

くなど感謝している。

**E氏** 事故を起した時など普通は外部に知れぬよう処理するものだがこの会はおープンに話し、また親身になってアドバイスや激励もし、助け合うなど大変良い関係が出来ている。今後も一層こういう関係は大切にしなければいけないと思います。

**F氏** 全体会のやり方を変えて行く必要があると思う。あの短かい時間では討議をする場が少ない。二次会とか、ゴルフ、マージャン等を通じ人間関係が出来、それから、仲間の会社に相談やアドバイスを受けることもできるようになると思う。

**B氏** 倉青協のメンバーは今後地区協会のそれなりのセクションを占め活躍してゆく必要があると感じる。

**A氏** 倉青協の中で地区毎の懇親を深めているところが各地にあり、良いことだと思うが、東京、大阪地区がもつと頑張つて地区協会でも力を増すようになる必要があるのではないか。

**G氏** 地区により種々の事情もあると感じる。

## 歴代会長より

**司会** では歴代会長の方針とか印象深い事柄について伺いたいと思います。

**初代会長** 私は親睦と勉強ということでスタートした訳ですが、行政側から指導、教育を得、また我々に期待を寄せていただいた

## 十年間を省みて

**司会** では次にこの十年間についてお願い致します。

**A氏** 歴代の運輸省倉庫課長さんには大変お世話になっており、特に設立時の増田課長さんには、倉青協を理解していただき、育てていただいたと感謝している。

**D氏** 歴代会長さんには、倉青協の会議には必ずといっていいほど、ご出席いただき行政面からのご指導を得、有難いことだと思ひます。

**F氏** 日倉協の高味専務さんは、本当によく我々のめんどうを見て下さっており、全体会の皆勤者ではないかと頭がさがります。

**A氏** 倉青協の隠れた効能ができています。それは、仲間の子息がメンバーの会社にお世話になっているということです。これは他の業界では見られないことだと思ひ、大変良いことではないかと感じます。

**B氏** 社員研修会でも、それぞれの会社にお世話いただき、そして勉強させていただき有難いことだと思ひます。

**I氏** 倉庫業の何たるか、経営者の何たるかを知らない自分にさまざまなことを教えていただき有難く感じており、特に、倉庫貨物の減少していた頃、メンバーの会社からお世話いただいたことや、コンピュータ導入時には新システムのアドバイスをいただいた

と感じていますし、業界の応援もあって、メンバーも会が出来たら是非入会したいという方が多く、その期待に応えるため一生懸命でした。

当初はいろいろな意見が多く特に地方の方は今まで発言の場がなかった。それが中央とつながったということと悩みや苦しみを述べこれに対するアドバイスを持つて会社へ帰り生かしたいということとで本当に一生懸命でした。

皆さんが何を考えておられるのかをまとめるのにも苦労した次第です。

**二代目会長** 私は初代会長に二期お願いした後でして、親睦と勉強にプラスして助け合いをモットーにしました。

一番大変だったことは、次の会長をだれにするかということに引継ぎに苦労しました。

仕事としては、本省の倉庫課の方々と我々との懇談を恒例化したこと。初の海外研修を行ないヨーロッパの視察とアテネでの世界倉庫連盟にオブザーバーとして十七名で出席し、歓迎され翌年の香港大会にも出席するよう要請され日倉協に報告し連盟への参加を働きかけ、日倉協に国際交流委員会が出来たりしました。

**三代目会長** 私は協業というスローガンをかかげてやって参りました。

そして日本縦貫倉庫グループの結成をみました。私は倉青協のメンバーは少し保守的、消極的ではないかと感じるし、もつと第

二、第三の縦貫グループが出来ても良いのではないかと思ひます。

例えば特定の共通荷主を中心とした会とか、お互いに親しい荷主を紹介し合うとか、もちろん本人の積極性の問題もありますが、倉青協を土台にして大きく活動出来ないものだろうかと感じます。

——意見として——

○ピックアップ方式のようなやり方は反対を唱えた

○あまりP・Rはしてはしくない

**現会長** 私は歴代会長のスローガンをそのまま引継いだのですが、年令のせい、O・Bの方々と密着をもっと深めたいという気持ちでやってきました。そして、リーダーシップより常任の方々のメンバーシップを大切にしております。

また、日倉協和田会長とも親しくお話しさせていただいており理解して下さっておると思っております。また仲間の方々ともお互いに理解しあえる人間の触れ合いを大切に行きたいと思っております。

昨年、新たに物流システム委員会を発足させ、講習会も開催しましたが、今後は新しい部会、委員会を考える必要があり、次期会長を早く決め新しいメンバーで早くとりかかってもらうよう考えております。

それと、地方の方々から倉青協の活動が一般紙に掲載されるようにとの要望もあり、そのようにしたいと努力しております。

## 今後について

**司会** それではまとめとして、今後についてお願いします。

**A氏** 倉青協も十年という一つの区切りなので、原点にかえて考えてみるのも必要ではないか。例えば役員任期は何故二年なのか、どうして全員が交替するのか……。これはメンバー全員が責任と自覚をもってもらいたいために決めたことであり、この精神を他の会についても生かしてもらいたいためであります。

**E氏** 将来の展望としては現メンバーの方は子弟を是非外国へ留学させてもらいたい。そして広い視野をもった外国語の一つや二つ、しゃべれる子弟が大きくなって倉青協に入会し活動される様になるとこの倉青協ももっとスケールの大きい見事な会に成長すると確信します。

**C氏** OB会（日倉倶楽部）と倉青協とはうまく行っているし、母体はあくまで倉青協であると確信してやっている。今後とも頑張つてやう。

**B氏** 倉青協を今後十年、二十年、五十年と続けてゆくためには会員の子息は必ず倉青協に加入させること、これがないと倉青協は無くなってしまふ。これだけは全員が銘記しててもらいたい。**司会** 本日は大変貴重なお話、ご意見をいただき有難うございました。今後の発展のため皆で一層頑張りを合せて行きたいと思ひます。

## 十年間を振り返って

乾倉庫株式会社

社長 乾 宏年

昭和四十八年五月に倉青協が結成され、本年で目出度く十周年を迎えることになりましたが、この十年間を回顧致しますと、懐しい思い出が昨日のことのようによみがえつて参ります。

あれは確か昭和四十七年の秋頃のように記憶して居ります。当時東京倉庫協会の会長を務めておられました洪沢倉庫・社長（現任会長）の八十島さんから、若手の倉庫業経営者の団体をつくらせてみてはどうかというアドバイスを頂いたことがきっかけであります。

東京・大成倉庫の鈴木さん、ご不幸にして既に亡くなられた葵倉庫の浜口さん、神奈川・湘南倉庫運送の河野さん、神戸・森本倉庫の森本さん等が発起人となり呼び掛けました処、東京・辰巳倉庫の山崎さん、名古屋・東陽倉庫の白石さん、大阪・天満倉庫の小西池さん、広島・芸備倉庫の古川さん、九州・吉田倉庫の吉田さん等々、在野の非常に優秀な若手経営者の方々にご賛同を頂きまして昭和四十八年五月に七十〜八十社程で当会がスタート致しました。

初代会長には大成倉庫の鈴木又右衛門さんが就任され、その後も歴代会長の積極的な会運営により活発な部会並びに委員会活動が展開されて会員数も相当増えて参りました。

特に印象に残つて居りますのは、昭和五十一年の当会初の海外視察ツアー（米國物流業界視察）に参加させて頂いたことや、同五十二〜五十五年にかけて社員研修委員会の委員長を委嘱された際、弊社施設を利用して中堅社員を対象にした研修会を開催させて頂いたことなどがございます。その他新春恒例の運輸省港湾局・倉庫課長を囲んでの懇談会を初めとして、年四回全国各地にて開催される全体会での各種講演、並びに同会終了後、諸々の機会を通して懇親を深めさせて頂いたことなど、それなりに実り多いものがありました。又、弊社は参加して居りませんが、気の合った会員仲間八十社程で「日本縦貫倉庫グループ」も結成されたようです。勉強・親睦他あらゆる面に於いてこの十年間の活動の結果があがって来たように感じて居ります。

しかし乍ら、振り返りますと、創立時の有力メンバーの方々はその後ほとんどご卒業され、当初八十島さんに声を掛けられ、会発足以前から現在まで在籍して居りますのは、現役では私だけに限り、大変寂しく、感慨無量な昨今でございます。この間、私の年齢で申しますと丁度三〇〜四〇歳の十年間に当たり、倉庫業の経営者の端くれとして今日の私がありますのに当会の活動が非常に役立ったことも事実でございます。半面、創立時のメンバー

が次々と卒業されていくにつれ、非常に寂しい気持と共に何か私も一つの役目が既に終わったような気が致しますのも偽ざる心境であります。

以上、拙文ではありますが、この十年間を顧みて雑感として纏めた次第でございます。

## 創立十周年にあたって

岡山土地倉庫株式会社

代表取締役社長 末長 範彦

倉庫業青年経営者協議会がめでたく創立十周年を迎えましたことを、皆さまとともに心からお祝い申し上げます。

昭和四十八年に設立され、私たち青年経営者にとって誠に心強いものであります。一方では、若さとして勉強と研究によって倉庫業界の発展に寄与してきました。創立十周年を迎えて一つの節目を刻んだわけですが、その期間は必ずしも順風満帆に進んで来たのではなく、第一次オイルショック、それから、第二次オイルショックに遭遇し、不況に強いとされていた倉庫業界も現在に至っては、その定説も通用しなくなっている。経済成長の鈍化あるいはユーザーの在庫圧縮等により、保管残高も減少気味にある。

また一方では、陸運、港運業者による倉庫業参入も盛んにおこなわれており競争もより一層激化していることにより、倉庫業界全体の刷新も迫られているようである。

我社のある岡山県においても、例外なく不況の波は押し寄せている。それを乗り越える為にも、来たる瀬戸大橋時代に期待し準備に取りかかっている。瀬戸大橋の架橋工事は昭和六十二年度の完成を目指し、着々と工事は進められている。また、一方ではこの大型プロジェクトを受けとめる地域づくりも急ピッチに進められており、山陽自動車道、中国横断道など基幹道路網等の整備にともない、流通部門においても、卸、運輸、倉庫からなる岡山県総合流通センターの整備もおこなわれている。集団化倉庫をつくることによって、コスト削減をはかりながら、荷主の新需要への敏速な対応により、中国、四国地方における流通業務の一大拠点にしようとしている。現在六社の入居も決まり新しい時代への期待も高まっている。

このように、倉庫業界としても、現在の状況を辛直に受け止め、創意工夫と努力を傾注することによって、単なる保管だけではなく総合流通コスト削減に寄与できるように改善することが緊急課題となっている。倉庫協においてもこれらの多くの課題を加味し、各部会でも裸の意見交換を行ない、将来への発展をかちとって行きたいものです。

終りに、倉庫協が、若い仲間たちの意見交換の場とし、また、

これからの難局を乗り越えて行く為の勉強と研究の場として、発展していただきたいと思っております。

会員各位の一層のご繁栄と倉庫協の健全な発展を心よりお祈り申し上げます。

## 倉庫協創立十周年に当って

株式会社 天満倉庫

株式会社 下関天満倉庫

代表取締役社長 小西 池庸吉

倉庫協創立十周年と聞けば、年月の過ぎ行く速さに感無量であり、亦当協議会が光陰の重みを加え、貴顕たる風格を漂わす雰囲気醸成されつつある事に慶びを禁じ得ません。

扱って廻ること十余年、当時、私はJCに席を置いていましたが、JCのOBも含め倉庫業者だけの「二世会」を作ろうと言う話を持ちあがり、流通関係で二回の会合を持ったが旅行会社、運送会社、倉庫会社、航空会社等々の面々が含まれ、設立の主旨にそぐわない感であった。

初代会長の鈴木又右衛門氏との出合いは、昭和四十五年大阪千里丘陵にて開催された万国博覧会の際、鈴木氏の要請により東京

倉庫協会を万博内のアメリカ館、ソ連館に入れることによって交誼の縁を得、爾来昵懇にお付き合いを願っている次第です。

扱て、その後開催された日倉協の総会にて、森本、小原、山崎、平田の各氏と意の通ずる処となり「倉庫業青年経営者協議会」を結成しようと言う運びになりました。掛声は簡単、然しいざ蓋を開けてみると倉庫の規模形体、内容等々千差万別、此れの統括には苦勞を重ねました。

先ずは関東地区鈴木氏を会長、浜口氏が副会長、関西地区では小生が副会長として初代の任を務めた次第です。

我が倉庫協当初の目標は「親睦から勉強」と言う柱で出発しましたが、会員の一部からは骨組作り、進路作り等々の十重二十重の意見が湧出しましたが形体が違ふ事によって苦勞をする一助もありました。要するに当初は地区報告及び委員会制度を設け、又、吾々二世の関心事の一つである相続税問題等を中心に勉強会を進めたものでした。

然し乍ら会員の一部の者より常任委員の中から各地区別に気の合った者を選んじて縦貫倉庫グループを作りました。

これに付いては故浜口氏が賛成を唱えておられたが私としては折角組織の出来上ったものを会員の一部の者より支配されると言うことには納得出来得なかつたのです。

そこで鈴木氏初め浜口、河野、森本の各氏と私は大阪にて長時間会合の結果、折角出来上がったもの（胎に子供をもつたもの）

を下ろさないでくれ、と言う意見などが出たが、結果の処、森本氏から別の縦貫倉庫グループを作ればいいじゃないか、と言う意見を容認することに落付いた訳です。

その結果、四、五年間は、縦貫倉庫グループの行動には少々目に余るものがあり、常識ある倉青協メンバーが退会する、又会議に出席しない時期がありました。私の意見としては、出来上ったものを潰すのではなく協業化委員会の中から自然的に縦貫倉庫グループ的なものが出来れば良いと考えていたのだが、一部の人のみを選り抜いてグループを作るということには反対であった。何れにしても真向から批判を受ける破目にと相成った。

又、後日OBクラブが結成された。これは、五〇才に到達するとOBクラブに入会する所謂JC方式を採ったのであるが、今思えば、此れによって倉青協を創った当時の有力なメンバーが日を重ねると共にOBクラブに替ることになり、繁栄しつつある倉青協の母体自身を薄弱化するであろう事を深慮し、残念に思う訳です。

大きな理由としては、日本倉庫業界に於いての貨物保管残高や倉庫面積から見ても大阪が第一位を占めているにも拘わらず、年間三千万円前後の上納協会費が大阪倉庫業界から東京に流れ込んでいる現状で、その為に大阪倉庫業界に地盤沈下を招いている原因の一つとも言えましょう。その一部でも地元に戻元することによって各地方に倉庫会館等を造り、業者間の連携をより密接にし、

集荷の向上とより効果的な料率決定等々、倉庫業界の地盤浮揚策と共存共栄の協力も磐石となるものと思います。  
我が国の倉庫業に於いては、中小倉庫会社が、八〇パーセント以上を占める現状であることを主軸として、あらたな中堅中小企業者による素晴らしいそして力強い倉庫団体が誕生することを希望してやみません。

## 倉青協ジェントルマン 気風について

京南倉庫株式会社

代表取締役社長 上村 多恵子

私が倉青協に入会させていただいたのが、昭和五十一年の十月第十四回大会のことですから、今年で七年目ということになります。入会当時は、まだ学校を出たばかりで急に両親共亡くし、仕事を始めたばかりでした。こういった全国的規模の会にも、始めて参加させていただき、とてもまぶしいような晴れがましい気持ちでいっぱいでした。本当に年月の経るの早いものでございます。ようやく、倉庫業の又経営のアウトラインがつかめてきたような気がいたしております。最近、倉青協だけでなく、他の会合に

も参加する機会がありますが、他のどの会よりも、なごやかなこの倉青協が私には一番居こちがよ、楽しいのです。それはなぜなのか、「メンバーの皆様が、男らしく、大人で、ジェントルマンだから」と、言ってしまうはそれまでなのですが、その事をもう少し考えてみたいと思うのです。

たとえば、「ゆたかな包容力」「礼儀正しいマナー」「果敢な決断力と行動力」「大胆かつ柔軟な発想」「機知に富んだセンス」「鋭い洞察力」……と、言葉をあげてゆきますと、もちろん、そういったものを具えておられることは確かなのですが、ありきたりの表現では、今一つ違う何かがある。倉青協の皆様にはあり、ジェントルマンたらしめているものがある。それは何なのか……「あ、そうか、それは、『九対六』なのだ」と、私の尊敬する、倉青協ジェントルマン度超Aクラスのあるメンバーの方のお話を、思い出したのです。「いつも、自分の思いどおりしようとか、勝とうとか、主役でないと思わぬとき。八対七で勝つのは、いじましいさかいに、九対六でええのんや。六つは相手に花をもたしめていたらええのんや」と、おうかがいした時、威厳はあっても、決していばったり権高でなく、やさしくユーモラスであっても、相手におもねることのない態度の秘密が、バツと開られてゆくように解けたのです。

本当のジェントルマンとは、自分自身に対する評価というものを、それ以上でもなく又それ以下にでもなく、正しく評価でき、

そしてこの「九対六」について、その情況や場面に応じ、又誇りと人生への自信に裏打ちされた形で、使い分けができる人ではないかと思うのです。

このジェントルマンの気風が倉青協のムードの主流にあり、その上に各々の個性のメリ、ハリをうまく引き出して、全体としてのまとまりとなごやかさを作り上げているのではないかと思うのです。いつもこの「九対六」の六の部分で、居こちよく、紅一点としてやさしくしていただいで感謝いたしております。皆様にふさわしいレディになるべく奮闘努力してまいりたいと思っております。どうぞ、これからもよろしくご指導下さいませ。

## モンキーサービス?

日本埠頭倉庫株式会社

代表取締役社長 松木 俊武

倉青協十周年記念というからには、何かめでたい話の一つも書きたいところですが、我々の商売をとりまく情勢はあまりにもきびしいようです。そこで無理な格好をつけるのは止めにして、最近感じたことを一つありのままに書かせて頂きます。ご不快の向

きは平にご容赦を。

皆様もご承知の通り我国の国民総生産は昭和三〇年代の一〇年が年平均で九・七四%、昭和四〇年代が八・九二%、とにかく二〇年に亘ってこんなペースで成長した国と言うのは世界史に例がないようです。オイルショック後は成長はおろかマイナスとも言われながら昭和五〇年前半は五%程度伸び続けて来ました。そして昭和五十五年このかた大体三%程度で推移しています。今後まあ三%±〇・五くらいで考えておいた方がよからうというのが大方の識者のご意見のようです。

数字だけ見てもこんな風に変化して来たわけですがその中味の変化はもつとドラスチックであります。詳しいことは省きますが、三%前後の成長といっても鉄鋼の生産とか、電力の消費などはむしろ減少してますし、我々の商売に関する総需要も明らかに減っています。ところが困ったことには昭和四〇年代頃に計画したさまざまなプロジェクトが、今頃実を結びつつあることです。各地の倉庫団地とか、何々埠頭の埋立など枚挙にいとまがありません。三〇年、五〇年という単位で見れば、充分値打ちのあるものではあります。短期的には何んとも困った存在になっていきます。ある地区でもやはり倉庫に入る貨物の総量が一〇%以上減少しているところは一べんに約十万㎡を超える近代倉庫群が完成しました。当然のことながら仲々埋まりません。ある会社の社長がその広大なスペースの前で皆を集めて「こんなに立派な倉庫を作ってやっ

たのにガラガラに空けといてバドミントンでもやろうと言うのか、とにかく何んでもいいから貨物をとって来い」とハッパをかけたそうです。そこで会社の人達は馳けずりまわったあげく、その近くの倉庫でやっている品物に目をつけ荷主の処に行つて「保管料はいくらでもよろしうございます」と言つてあつと言つ間に数千トン集めた由。自由経済の世、無論荷主は大喜びです。しかし長期的に見てこれは本当に正しいことでしょうか。今申し上げた例はやや極端ですが、これに類することが各地で頻発しているそうです。

本質的な改革によるサービスを提供して、他を圧倒して行くというのは大いに結構なことですが、単に料金だけ下げて仲間同士で首を絞め合うようなことをやっつては第三者から見ればモンキーサービス（こんなことはありませんがモンキービジネスということばがあります）と言われかねません。

そこで提案ですが、料率実施委員会も結構ですが、こういう時期に社長はヤタラに集荷のためハッパをかけないという申し合せでもしたらどうでしょうか。これなら公取だつて別に異存はありません。

## 「倉青協」十周年お目出度う

日本倉庫経営者倶楽部

会長 白石信喜

倉庫業青年経営者協議会がこの度お目出度う十周年を迎えられましたことを、先ず以て心からお祝い申し上げます。

と申しましたも、六年前に発足しました日本倉庫経営者倶楽部の会員の総ては、倉青協にもOB会員としての席を持っており、また殆どの会員が倉青協のチャーター・メンバーとして、この十年間、協議会と歩みを同じくしてきた者達でありますために、十周年を迎えての感慨もひとしお深いものがあり、私達としては、日倉倶楽部の立場として倉青協にお祝い申し述べ一方で、これを自分達の事として言祝ぐ気持が強く出て参るのも、ごく自然の感情であると思っております。

顧みますと、倉青協が発足しました昭和四十八年から今日までの十年間は、まことに激動の時期でした。

その年の十月に第四次中東戦争が勃発し、続いて発生したオイル・ショックにより、それまで好景気を謳歌してきた高度成長経済も終りを告げて、以後は低成長、景気後退、財政悪化といった

重苦しい道を辿ることになりましたが、その中であつて、倉青協は歴代会長の統率力と会員各位の協力によって非常な進展を見せ、会員個々のお会社の発展とともに、今日においては、所属地区協会での活躍はもとよりのこと、日倉協の各種委員会においても、その不断の努力が続けられて、大きな力となっているのは紛れもない事実であつて、心から敬意を表する次第であります。

然しながら、ここに十周年という一区切りの年を迎え、尚且つ、業界を取りまく環境にも益々厳しさの加わりつつある今日、協議会としても、これまでの経過を十二分に省みると共に、この間に不知不識のうちに溜まっていた「おり」のようなのが若しもあるとするならば、私は、これを洗い流して次の節目に向つて新たな気持で進むための、全員討議の場を持つことが是非とも必要ではないかと思ひます。

十年という時が流れ、その間に環境の激変があり、そして物流の内容にも種々な変化がもたらされてはきたものの、倉青協設立の主旨は今も変わらずに生き続けており、それは正しく純粋なものであると確信しております。

あの昭和四十八年五月十八日の設立総会の折に、世話人代表の森本氏が言った、倉青協は、互に血の通った相互補完の関係を保つための組織であり、物流革新下の倉庫業の将来あるべき姿についての若者同士の模索の場である、という言葉、また、初代会長に選出された鈴木氏が述べた、倉青協は、業界発展のために共通

する主要問題点について、青年経営者が意志の疎通を図り理解し合うための勉強の会であり、連帯感を強め、親睦を深め、互に励まし合う懇親の会にもしたい、という挨拶、そして最後に司会者である小原氏が言った、総会の運営や規約の内容などに不備、不満な点があるとしても、すべてを青年の友情と好意で以て支えていって欲しい、という閉会の辞、それに、終始あふれるばかりの熱気、その何れをとってみても、目的と使命を同じくする同世代



## 倉庫業青年経営者協議会十周年を祝う

初代会長 鈴木 又右衛門

昭和四十八年五月に倉青協が発足以来、十周年を迎えたことは誠に喜ばしいことである。

思えば昭和四〇年代後半から設立の動きがあり、当時商工会議所をはじめ各業界において若手経営者の会が組織され、特に運輸業界で全運研が昭和四十七年に設立されたのを機会に、当倉庫業界においても急速に具体化されたものである。

実は昭和四〇年の前半から業界のいろいろな会合に出席していたが熟年の方々が多く、しかも地区の方々同志以外は全くといっ

の若き倉庫マン達の真情と活気に満ち満ちておりました。

倉庫業青年経営者協議会も、ここに思いを新たにして再び生き生きとした歩みを始められることと思いますが、どうか初心を忘れずに、会員の努力によって折角とした業界における「若者の灯」を守り育てていって欲しいと念願する次第であります。

十周年、本当にお目出度うございます。

ていい程話し合うことがなく又会議も、セレモニー的で何か物足りなさを感じていたが、昭和四十二年日倉協評議員会が別府で開催された機会に、同じ業界にありながらこの様なことではないけな思っていたところ縁あって森本倉庫の森本氏に会うことができお互いに業界の若手経営者が親睦と勉強をしなければならぬこと、更に又お互いがもっと胸襟を開いて話し合うべきことにいつて共通の認識と理解に相通するものがあり、では何とかまとめる様ではないかと話し合ったのが倉青協設立の初まりである。

その後同憂の若手経営者に働きかけ四十七年九月北海道の評議員会において有志が協議の結果倉青協の結成準備の打合せを行ったが、当時全国の若手経営者が八名集まり世話人となり世話人代表として東日本は私が西日本は森本倉庫の森本氏が選ばれその後更に、打合せを行い早い機会に設立総会を開くことで意見の一致をみたものである。

昭和四十八年二月創立準備会を東京で開催したところ全国から二〇社の出席があり会員が志を同じくすることで意見の一致をみて規約を作成し親睦と勉強をメインテーマとし発足することになった。

昭和四十八年五月十八日、「パレスホテル」において設立総会を開催し総会には運輸省佐藤政務次官をはじめ高橋参事官、増田倉庫課長、業界からは竹内日倉協会長、八十島東倉協会長他幹部多数の来賓と共に全国から百社の参加を得て盛大に開催、規約承認、役員選出等の議事を終了し懇親会に移り各来賓より活気あふれる祝辞をいただき若手経営者に相応しい設立総会であった。

そして初代会長に私が副会長には葵倉庫浜口氏、天満倉庫小西池氏が選ばれ発足したものである。

思えばこの会を計画してから長年の歳月を費したが各会員各社の積極的なご支援とご協力そして激励をいただき今日を迎えたことは誠に有難いことであり、ここに会員各位に心から感謝とお礼を申し上げる次第である。

会の運営にあたって全国組織のために先ずお互いに会員同志が知り合い意思の疎通をはかること、そして経営者としての研修倉庫業の勉強を中心として幅広い資質の向上をはかることを目的としたこの十年の間、会員の方々には全体会を通じ又各種の委員会を通じて勉強と親睦そして協調の実をあげられておりこの素晴らしい倉青協の輪が今後ますます広まることを心から期待をしているところである。

幸いにして運輸省、日倉協をはじめ各地区協会関係者の暖かいご支援ご協力を得ることができ、そして又会員の積極的な奉仕のもとにそれぞれユニークな実りある全体会を各地で開催しながら現在にいたっている。

その後倉青協の発展と共に助け合いと協調をスローガンにかかげ会員同志の自主的な業務提携をはじめ全国各地の経営者と共通の土依の上に立つてお互いに話し合い親睦を深め意思の疎通をはかることができるようになり会員が全体会に進んで参加し実り多いものとなるよう努力をしているところである。

そして全国の倉青協会員が次代を担う経営者として、更に資質を高め日夜研鑽努力して業界の発展と企業の社会的責任を果たしながら努力をしていただき度いと思うものである。

更にはこの倉青協が業界の礎となり明日を開く倉庫業の発展に少しでも寄与できれば、望外の幸である。

又昭和五十二年七月には倉青協のOBをもって組織した日本倉

庫経営者倶楽部が設立され、倉青協と緊密な連携を保ちながら、相互理解のもとに協調発展をして現在にいたっている。

私共はこの素晴らしい土俵のもとに共通の理解と認識に立って倉庫業の経営基盤の確立と社会的地位向上のために一層の精進をしなければならぬと思う。

そして若手経営者の英知を結集し、二十一世紀に向かって初期の目的達成のために努力をしなければならぬと思うものである。

倉庫業をとりまく環境はかつて経験したことのない厳しく且つ難しい時期にきており、大きな転換期を迎えている。

この様な中において我々は何をなすべきかを考え今後の対応を考えていかなければならぬと思う。

## 脱皮せよ 飛躍せよ



二代会長 河野鉄雄

創立十周年。まことに同慶にたえません。

私は四〇才の時に倉青協の創立に参加し、十周年を迎える今年五〇才で卒業いたします。神奈川県片隅において、地域以外のことは全く知らなかった倉庫業者が、全国の隅々に迄知己を得、多

明日の物流を担う倉庫業の限りなき発展を期するために私共は今後共物流コンサルタントとして荷主のニーズに応えるべく弛まぬ勉強と研鑽を重ねながら活力と魅力ある会に発展するよう期待し願うものである。と同時に倉青協が今後業界の指導的役割を果たすことができるよう、会員各社の積極的な協力と奉仕によって業界の推進力となり会員が小異を捨てて大同につき団結して倉庫業の明日への道を切り開いていただきたいと思っている。

今後共運輸省当局をはじめ業界皆さま方のご指導ご鞭撻を切にお願いする次第である。

終りにこの十周年を心からお祝いすると共に倉青協が今後ますます充実発展することを祈念するものである。

くのことを学び、又全体会は殆んど皆勤で全国各地を訪れることも出来ました。事業経営の上でも、個人の人生においても、得難いものを身につけることが出来たとよろこんでおります。

その間、昭和五十二年から二年間は会長を仰せつかり、会員皆

様のご協力によって、運輸省倉庫課との定例懇談会が実現し、定着化したこと。倉青協の海外研修旅行が起爆剤となって日倉協に国際問題委員会の誕生を見、明年五月には国際倉庫連盟総会が日本で開かれることになったこと等を、私なりに精一杯働かせていただくことが出来ました。

倉青協は今日から次の十年へ向かって一步を踏み出します。これからの十年は創立当時からの子弟が続々と入会し、脱皮

と飛躍が行われる筈でありますし、あと十年経てば恐らく創立時のメンバーは一人も居なくなる筈です。倉庫業そのものも大きく変革していくでしょうが、倉青協は脱皮と飛躍することによって倉庫業界の牽引車になって欲しいとおもいます。

更に十年経って二十周年を迎えた時に、尚脱皮と飛躍を続ける倉青協の二十周年式典を楽しみにしつつ、喜びの言葉といたします。

## 倉青協の十年



三代会長 古川浩司

十年前に倉青協が結成され、それに入会した当時、私は四十一才でした。云うところの二世経営者である私はその時、倉庫会社の社長の経験は極く短期間であり、倉庫業の歴史、外国や日本での現状、そして将来の展望、そういった事への理解は全く無かったに等しいものでした。

初代会長としてこの会をまとめ上げ、誕生をさせ、又引張って来て呉れた鈴木又右衛門氏の、当初の標語が「勉強と親睦」であったために、私には特にビタリの感がしましたネ。地方にいて、

一倉庫業者である者にとっては魅力一杯でした。日本倉庫協会の会議等にはそれまで一度も出席していなかった私にとっては特にネ。

しかし、いざ皆さんと初めて会って色々の会話を聞いていると、他の皆さんが、可成り勉強済みだったことが分り、相当のショックでした。種々の委員会が作られ、勉強の機会はやって来ましたが、ただ聞いているだけ、それでも少しづつ耳も眼も慣れて来ましたが、親睦の方は勉強よりもずっと早いスピードで訓練の成果

が出て来たものです。特に当時の鈴木会長の歌の上手さとそのレパートリーの広さには眼を見張らされ、それに聞きほれている会員の間での親睦は大変実績が上ったものです。

親睦の上つた上での勉強、研修は、日倉協或いは他の団体のそれとは異って密度の濃いものが得られた事は当然と云えますネ。

特に隔年に行われる倉青協主催の海外研修等は、その楽しさと云つたら他に例を見ないでしょう。云うなれば和気萬々の五乗位の雰囲気でした。世の中の国際化時代の波にも充分対応出来る素地を見た様な気が致しました。当時も時折申しました様に、吾々の子弟も少なくとも二、三年は外国生活を送らせ、外国語の一つや二つは、話すことの出来る事がこれからの日本の為には必要だと思えますが、既にそれを実行している会員が、倉青協の中にあることは、皆さんもご存じの事でしょう。

視野の広い、そして若さを重視したこれからの倉青協は、この業界にもこれから大いに役立つでしょうし、倉庫業の枠を飛び出して、全く発想の違った実業へ進出する会員たちが続出して来たから誠に輪快だろうと思えますネ。

倉青協の現役員とは云え、これからの展望を考える時、矢張り後継者の事も入れておかなければと思いますが、その際、政府の補助問題とか、金融財政面での援助問題とか、又その他の恩典の問題とか、そう云う事柄に詳しくなることより、それを大き

く及び超えて、広い視野、深い洞察等で全く異った発想を駆使出来る人を育てることを始めるべきと思えますネ。これは何も吾々の子弟に限らず、組織の中の若い人達に対しても全く同じ事だと思えます。倉青協会員は、平均的日倉協会員とは、可成り若いことは事実ではありますが、入社間もない連中から見れば、全然若くはないことを銘記し、これを反芻するべきでしょう。

先輩も、吾々も、そして後輩も揃って来たるべき新しい時代に即応が出来るとしたら、これは本当に素晴らしい事だと思えます。倉青協の益々の発展を心からお祈りいたします。

## 総会・全体会 記録

### 設立総会

と き 昭和四十八年五月十八日  
と ころ 東京「パレスホテル」  
参加者数 五三名  
祝 辞 佐藤政務次官  
竹内日倉協会長  
八十島東倉協会長  
来 賓 運輸省 増田倉庫課長

### 第一回

と き 昭和四十八年七月二〇日  
と ころ 大阪「ロイヤルホテル」  
参加者数 五一名

○ 運輸省 増田倉庫課長

「広い心、受け入れる心、柔かい心の三つの要素を忘れずに会の運営に当ってほしい」





## 第二回

と き 昭和四十八年十月五日  
 ところ 東京「ホテルニュージャパン」  
 参加者数 四二名

- 運輸省 増田倉庫課長
- 「倉庫の集団化」
- 中小企業金融公庫 河野次長
- 「倉庫業における金融について」

## 第三回

と き 昭和四十九年二月八日  
 ところ 名古屋「都ホテル」  
 参加者数 四三名

- 東海海運局 山田運輸部長
- 「今後の倉庫業のあり方」

## 第二回総会 第四回

と き 昭和四十九年五月十四日

ところ 東京「東京会館」  
 参加者数 四〇名

- 運輸省 増田倉庫課長
- 「四十八年度間に於ける報告事」
- 「四十九年度行政方針について」
- 河野参議院議長
- 「一隅を照らすこれ国宝」

## 第五回

と き 昭和四十九年七月十八日  
 ところ 石川、片山津「矢田屋」  
 参加者数 三九名

- 日倉協 岡田専務理事
- 「日倉協活動状況及び強化について」
- 西川流通委員長
- 「国鉄問題について」
- 前田財務委員長
- 1 「景気見透しへの指標として」
- 2 「日倉協財務委員会について」
- 3 「これからの倉庫経営について」

## 第六回

と き 昭和四十九年十月二十三日  
 ところ 神戸国際ホテル  
 参加者数 五二名

- 運輸省 増田倉庫課長
- 1 「倉庫整備五ヶ年計画の推移について」
- 2 「料金改訂問題」
- 3 「税制、金融、財投について」
- 4 「物流行政の指向」
- 大阪港湾福利厚生協会 川田理事
- 「経営者に望むこと」

## 第三回総会 第八回

と き 昭和五〇年五月二十一日  
 ところ 横浜ホテルニューグランド  
 参加者数 五三名

- 国旗協会常任理事 平田敬量氏

## 第九回

と き 昭和五〇年七月二十一日  
 ところ 仙台作並グリーンランドホテル  
 参加者数 四九名

- 運輸省 近藤倉庫課長
- 「これからは低成長が通説になる。現業者は物流に対する対処は正しいか質的な面で考え直す必要がある」

## 第七回

と き 昭和五〇年三月十四日  
 ところ 博多東急ホテル  
 参加者数 五二名

- 早稲田大学 中西教授
- 「転換期に於ける倉庫業について」
- 運輸省 増田倉庫課長

### 第十回

と き 昭和五〇年十一月  
 ところ 沖繩不二ホテル  
 参加者数 三三名

○日本銀行那覇支店長 河野氏  
 「沖繩復帰後の経済」

### 第十一回

と き 昭和五十一年二月十三日  
 ところ 広島グランドホテル  
 参加者数 五七名

○蚕糸倉庫 花井杜長  
 「全体会映画」

1 「遠隔地間での業務提携」  
 2 「物流の中心は倉庫業である」

### 第四回総会 第十二回

と き 昭和五十一年五月二十八日



ところ 東京ホテルニューオータニ  
 参加者数 五七名

○河野参議院議長

- 1 「事業は環境によって育ち人によって減ぶ」
- 2 「日本で大事なことは食量問題だ。今日あって明日の保証はない」
- 3 「サビは鉄から出て鉄を減ぼす」
- 4 「体育、知育、徳育、体に財をたくわえる」

### 第十四回

と き 昭和五十一年十月二十九日  
 ところ 京都グランドホテル  
 参加者数 六一名

○早稲田大学 中西教授  
 「レポートによるアメリカの倉庫協会」  
 ○京大名誉教授天文学博士 宮本氏

### 第十三回

と き 昭和五十一年七月二〇日  
 ところ 札幌全日空ホテル  
 参加者数 三四名

○高味日倉協専務理事

- 1 「損害賠償の問題について」
- 2 「料金問題について」
- 3 「税金問題について」
- 4 「金融面について」

### 第十五回

と き 昭和五十二年二月十八日  
 ところ 別府杉の井ホテル  
 参加者数 四〇名

○岡田日倉協専務理事  
 1 「料率実施委員会の組織の強化」  
 2 「物流について」  
 ○大分佐藤市長  
 「現在の経済情勢及び大分市の現況について」

第五回総会 第十六回

と き 昭和五十二年五月二〇日  
ところ 東京パレスホテル  
参加者数 六五名

- 運輸政務次官 石井 一氏
- 「空港問題、国鉄問題について」
- 運輸省 坪井倉庫課長
- 「業界のあるべき姿について」

第十八回

と き 昭和五十二年十一月九日  
ところ 奈良 菊水楼  
参加者数 五三名

- 高味日倉協専務理事
- 「日倉協の動向について」
- 薬師寺管主 高田好胤氏
- 「南方諸島戦没者慰霊法要の土産話」

第十七回

と き 昭和五十二年七月二十二日  
ところ 岐阜長良川ホテル  
参加者数 四八名

- 西濃運輸 田口社長
- 「私の経営路線、理念について」
- 高味日倉協専務理事
- 「五十三年度種別財政融資について」
- 運輸省 坪井倉庫課長
- 「業界展望並びに将来予測について」

第十九回

と き 昭和五十三年二月二十三日  
ところ 浜松グランドホテル  
参加者数 五〇名

- 静岡経済研究所 山崎部長
- 「経済情勢の現状と将来展望」

第六回総会 第二十回

と き 昭和五十三年六月十四日

ところ 東京パレスホテル  
参加者数 五五名

- 運輸省 坪井倉庫課長
- 1 「物流全般について」
- 2 「物流子会社に対する問題」
- 3 「家用倉庫と営業倉庫とのもの考え方」
- 小此木参議院議員
- 「一般情勢及び国会内に於ける委員会の活動状況 審議成立等」

第二十一回

と き 昭和五十三年八月二十五日  
ところ 箱根プリンスホテル  
参加者数 三八名

- 花王石鹼 山越専務取締役
- 1 「物流の問題 花王のシステムについて」
- 2 「倉庫としての流通設計システムをもっているか」



第二十二回

と き 昭和五十三年十月二十七日  
ところ 神戸商工会議所  
参加者数 六一名

○高味日倉協専務理事  
1 「倉庫業法改正について」  
2 「消費税について」

第二十三回

と き 昭和五十四年三月十五日  
ところ 高知「三翠園ホテル」  
参加者数 四九名

「日倉協報告」  
イ、国際倉連、香港大会  
ロ、倉庫業海外視察団、今年はヨーロッパを予定  
ハ、中国から倉庫視察団が来日

第七回総会 第二十四回

と き 昭和五十四年六月十四日  
ところ 東京「パレスホテル」  
参加者数 六〇名

○元NHK解説委員長 循方彰氏  
「アメリカ、ソビエットの軍需力、平和共存、現在エネルギー問題となっている石油の輸出入等について」

第二十五回

と き 昭和五十四年八月三〇日  
ところ 岡山「国際ホテル」  
参加者数 四五名

○岡山大学法文学部長 福田氏  
「中華人民共和国と台湾等を旅してみた古い中国」

第二十六回

と き 昭和五十四年十一月十八日

ところ 京都「都ホテル」

参加者数 六七名

○松尾寺住職 松尾心空師  
「人間はこの世の間借り人である」

第二十七回

と き 昭和五十五年三月二十八日  
ところ 宮崎「サンホテルフェニックス」  
参加者数 二八名

○自民党農林水産部会長 近藤氏  
「現在の政治情勢、予算編成の問題点、食糧制度その他の社会問題について」

第八回総会 第二十八回

と き 昭和五十五年五月二十八日  
ところ 東京「パレスホテル」  
参加者数 五〇名

○日本国有鉄道総裁 高木氏  
「現在の国鉄に於ける特異な体質、これからの国

鉄の経営方針等について」

第二十九回

と き 昭和五十五年八月八日  
ところ 静岡「修善寺グランドホテル」  
参加者数 三五名

○修善寺町文化財保護委員会 長倉氏

第三十回

と き 昭和五十五年十一月十七日  
ところ 横浜「プリンスホテル」  
参加者数 五四名

○NHKアナウンサー 鈴木文弥氏  
「スポーツ界での指導者から教わったこと、見て感じたこと」

第三十一回

と き 昭和五十六年二月二十六日  
ところ 鳥羽「国際ホテル」

第10回総会並びに第36回全体会  
倉庫業青年経営者協議会



参加者数 三八名

○神宮司庁神宮宮掌 佐藤昭典氏  
「神宮をささぐるもの」

○神宮権弥宜 矢野憲一氏  
「一五〇〇年つづくもの」

第九回総会 第三十二回

と き 昭和五十六年六月十七日

ところ 東京「パレスホテル」

参加者数 六二名

○新赤坂クリニックス院長 松本康夫氏

「攻めの健康法、守りの健康法」

第三十三回

と き 昭和五十六年八月二十八日

ところ 名古屋「観光ホテル」

参加者数 五八名

○名古屋商工会議所会頭 三宅重光氏

「オリンピッククについて」

第三十四回

と き 昭和五十六年十一月二〇日

ところ 広島「グランドホテル」

参加者数 四五名

○マキ・レデイス・トレーニングルーム 菅原マキ氏

「経営者のための健康体操」

第三十五回

と き 昭和五十七年三月五日

ところ 熱海「大月ホテル」

参加者数 四七名

○東京芝浦電気㈱

物的流通部長 鬼頭 明氏

第十回総会 第三十六回

と き 昭和五十七年六月二四日

ところ 東京「パレスホテル」

参加者数 五七名

○東レ㈱物流担当 堀江理事

第三十七回

と き 昭和五十七年八月七日

ところ 仙台「三井アーバンホテル」

参加者数 四六名

○山田新作氏

「リーダーシップ」

真珠湾特攻体験を通じて

第三十八回

と き 昭和五十七年十一月十八日

ところ 富山「第一ホテル」

参加者数 四六名

○北陸経済研究所常務理事 杉本正享氏

「これからの経営課題について」

# 倉庫業青年経営者協議会 会則

## 第一章 総 則

(名称)

第一条 本会は倉庫業青年経営者協議会と称する。

(事務所)

第二条 本会の事務所を会長会社に置く。

## 第二章 目的及び事業

(目的)

第三条 本会は会員相互の親睦と協力により、倉庫業の発展及び社会的地位の向上を図り、物流革新に対処し倉庫業の基盤の確立進展に寄与することをもって目的とする。

(事業)

第四条 1、監督官庁をはじめ、政界学識経験者の講演並びに懇談会の開催。  
2、日倉協及び各地区協会に対する要望事項。

3、監督官庁をはじめ関係先方面に対する要望及び情報交換並びに資料収集。  
4、その他目的推進のため必要な事業。

## 第三章 会員及び会費

(会員)

第五条 本会は①倉庫業を主たる業務として経営し、②原則としてその代表権を有する者、③五〇歳未満の日本倉庫協会加盟の者であり、本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

(運営費)

第六条 本会の運営費は会費及び寄附金その他の収入をもってこれに充てる。

(会費)

第七条 会員は入会金一〇、〇〇〇円と会費として年額二四、〇〇〇円を拠出するものとし、毎年六月に納入するものとする。

(会計年度)

第八条 本会の会計年度は四月一日に始まり三月三十一日に終る。

## 第四章 役員

(役員)

第九条 本会に次の役員を置く。

会 長 一名  
副 会 長 三名  
常 任 幹 事 二五名

一、北海道・東北 二、関東 三、東京 四、中部北陸 五、近畿 六、神戸  
七、中国・四国 八、九州・沖縄  
監 事 三名

会長は総会に於て会員中より選出する。

副会長、常任幹事及び監事は総会に諮り、会長が委嘱する。

(職務)

第十条 会長は本会を代表し会務を統轄する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときその職務を代行する。

常任幹事は本会の運営に参画し重要事項を審議する。

監事は本会会計の監査に当る。

(役員任期)

第十一条 役員任期は二年とする。

尚、補欠選任せられた役員は前任者の残存期間とする。

## 第五章 会 議

(会議)

第十二条 本会の会議は総会、全体会及び常任幹事会とする。

全体会及び常任幹事会は毎年各四回開催を原則とし、会長これを招集する。

(権能)

第十三条 定時総会は毎年六月に招集し次の事項を議決する。

1、予算及び決算に関する事。

2、事業計画に関する事。

常任幹事会は次の事項を議決する。

1、総会に提出する議案。

2、事業計画の実施運営に関する事。

3、その他必要と認める事項。

4、緊急を要する事案で、総会を開催する暇なき場合は常任幹事会をもって総会に替えることができる。

但し、次期総会において承認をもとめるものとする。

(議決)

第十四条 本会の議決はすべて出席会員の過半数による。但し、可否同数なるときは議長これを決する。

## 第六章 雑 則

(会則の改廃)

第十五条 本会則の改廃はすべて総会の議決による。

(内 規)

第十六条 本会則の運営上必要な内規は常任幹事会の議決による。

(入会及び脱会)

第十七条 入会及び脱会しようとする者はその旨、書面をもって会長に届出るものとする。

(OB会員)

第十八条 シニア会員とし、会員資格は一般会員同様参加、発言は自由とする。

但し、議決権と役員(正・副会長、委員長、常任幹事、監事)就任の権利を有さない。

## 附 則

昭和五十二年四月一日改正

---

## 倉 青 協 10 年

21世紀に向かって

昭和58年3月11日発行

編 集 倉庫業青年経営者協議会  
常任幹事 第一倉庫 小泉駿一

発 行 倉庫業青年経営者協議会  
創立10周年記念委員会  
横浜市鶴見区大黒町2番57号

印 刷 三 友 社 印 刷

---



